

AXIES2025 RDM部会企画セッション

# **研究データマネジメントの 地域間連携：趣旨説明**

松原 茂樹

(AXIES RDM部会主査 / 名古屋大学情報基盤センター)



# AXIES-RDM 部会



体制

ポリシー

DMP

データ人材

即時OA

コア  
ファシリティ

データ基盤

研究データマネジメント部会への参加方法 <https://rdm.axies.jp/sig/24/>

---

AXIES正会員、賛助会員にご所属の方のうち、研究データマネジメント部会  
に参加をご希望の方は、以下の情報を事務局 (office@axies.jp) 宛にお寄せください。

\*\*\*\*\*

部会名：研究データマネジメント部会

参加希望者の氏名：

所属：

メールアドレス：

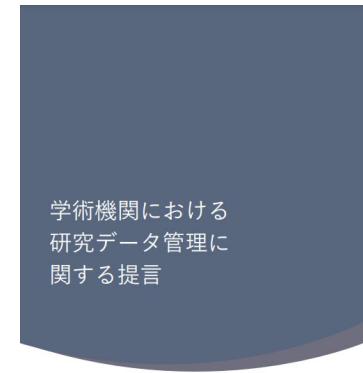
\*\*\*\*\*

本日、17:15-18:15 部会ミーティング@2階 F会場 (206)

# AXIES 年次大会（RDM部会企画セッション）



2016	全学研究データマネジメント環境の構築に向けて
2017	日本のRDM – 方針策定と情報基盤開発に向けて
2018	RDM環境構築のためのポリシーメイキング
2019	RDMの組織的行動への展開
2020	大学におけるRDM支援体制の構築
2021	大学での組織的RDMフレームワーク – 実践と洗練
2022	大学における研究データガバナンスを考える
2023	RDM推進の学内体制を考える
2024	RDMは研究活動をどう促進するか



AXIES 大学ICT推進協議会  
2019年5月1日



AXIES 大学ICT推進協議会  
2021年7月1日

# 研究データマネジメントの事例形成に向けて



## ・大学の研究データマネジメントの取り組み事例を蓄積

雑誌「情報の科学と技術」

(情報科学技術協会の月刊誌に毎号掲載)

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jkg/-char/ja>



RDMに関する講演



講演内容を元に毎号寄稿



2024.10～2025.9 の連載（全13編）を  
事例報告集として発行

## AXIES2025 の RDM

1.

1AM2T

タップでON/OFF  
♥ お気に入り

## 研究データマネジメントの地域間連携

提案団体名	研究データマネジメント部会
日時	2025/12/01 11:10~12:40
会場	特別会議場

2.

RDM部会ミーティング  
12/1 17:15-18:15 @2階 F会場 (206)

3.

3PM1B

タップでON/OFF  
♥ お気に入り

## 研究データマネジメント

座長	甲斐尚人 (大阪大学)
日時	2025/12/03 14:00~15:15
会場	B会場

# 研究データエコシステム構築事業

<https://www.nii.ac.jp/creded/project.html>

AXIES

研究データ基盤高度化チーム  
NII Research Data Cloudを  
7つの側面から機能拡張

研究データ基盤の機能実装

## 活用 コード付帯機能

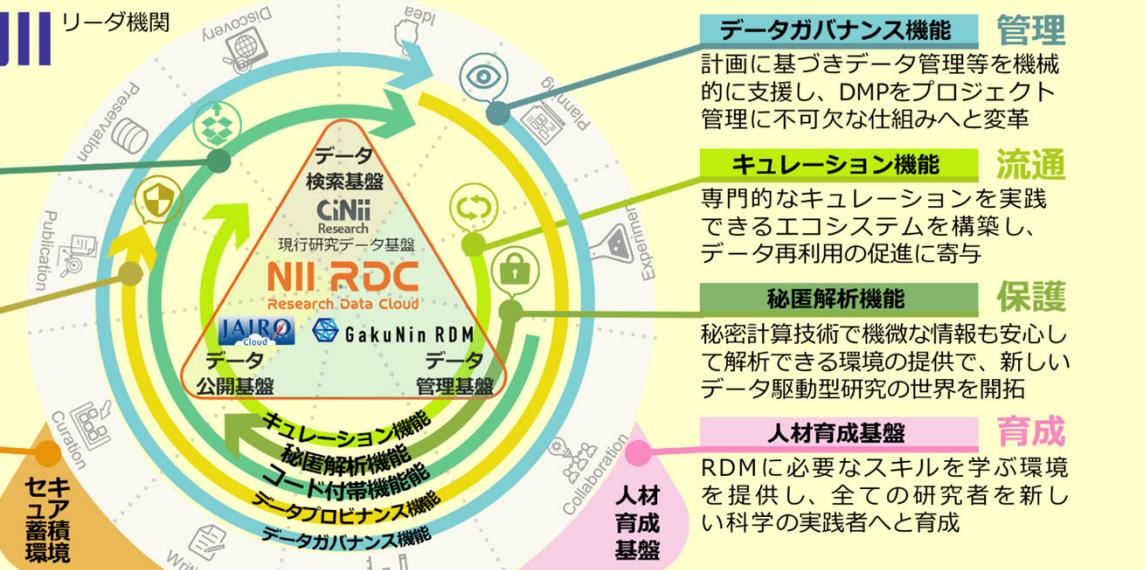
データ・プログラム・解析環境の  
パッケージ化と流通機能を提供し、  
研究成果の再現性を飛躍的に向上

## 信頼 データプロビанс機能

データの来歴情報の管理から利用  
状況を把握でき、データ公開への  
インセンティブモデルを提供

## 蓄積 セキュア蓄積環境

安全で強固なデータの保存・保護機能  
を有する超鉄壁ストレージを提供し、  
機微な情報も安心して保全



## プラットフォーム連携チーム

 理化学研究所

リーダ機関

- 機関内サービス等とNII RDCの連携機能の整理と設計
- 計測機器等からの大量データを効果的に管理するための要件整理と機能開発
- 管理対象となるメタデータの設計と実証
- 関連する高度化機能との仕様調整と共同開発

## 融合・活用開拓チーム

 東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

リーダ機関

- 異なる分野間でのデータ活用やデータ連携に発展する取り組みを精査
- 異なる分野間でのデータ活用やデータ連携に関する具体的なユースケースを創出
- ユースケースをまとめたツールキットの作成とそれを用いた広報活動

## ルール・ガイドライン整備チーム

 名古屋大学  
NAGOYA UNIVERSITY

リーダ機関

- 研究データの活用に適した機械可読データの統一的な記述ルールの設計
- 研究データの公開に必要な要項や作業フローの整備
- 研究データを適切に取扱うための指針のまとめ
- 学内整備のための事例形成

## 人材育成チーム

 大阪大学  
OSAKA UNIVERSITY

リーダ機関

- 人材育成を主とした研究データ管理体制の構築を推し進める学内組織構築の事例形成
- 研究データ管理人材に求められる標準スキルに関する検討
- 研究データ管理人材育成のためのカリキュラムの作成、オンライン学習コースの整備

中核機関群の代表からなる運営委員会が全体を統括し研究データエコシステムの全国展開に向けて共同実施機関を随时拡大

# 研究データ管理スタートアップ支援事業

<https://www.nii.ac.jp/creded/start-up.html>

中核機関群：司令塔機能を果たし、各拠点大学と連携し相談等に対応する

NII

理化学研究所

東京大学

名古屋大学

大阪大学

- ✓迅速な相談、密な連携
- ✓現状課題の共有

各地域におけるコミュニティ：核となる拠点大学が支援機関としてリード

- 全国に、拠点大学を作り、中核機関群が支援し、各拠点大学が地域の多様な大学・研究機関を支援

- 潜在需要が想定される大学も含め、コミュニティを広げていく

2024年度開始予定：

- ・中国四国地区（広島大学）
- ・九州地区（九州大学）

2025年度開始予定：

- ・北海道地区（北海道大学）
- ・東北地区（東北大学）

2023年度活動（抜粋）

- ・コンソーシアム設立
- ・セミナー開催
- ・支援チームの派遣
  - \*データポリシー策定
  - \*セミナー講師派遣
  - \*学内アンケートの実施・分析

2023年度開始済：

- ・東海地区（名古屋大学）
- ・北陸地区（金沢大学）

波及

波及



# 大学の研究データ管理は地域連携で促進されるか？



- “ChatGPT 5.1” <https://chatgpt.com/> の回答・・

• **はい。**むしろ、現在の日本の状況（専門人材不足・予算制約・国の方針の強化）を踏まえると、**地域連携はもっとも現実的かつ効果的な推進方式**です。

1. **専門人材不足を補える** 多くの大学では、RDM担当（図書館、URA、情報部門）が少人数です。地域連携により、単独では届かない専門性を確保できます。
2. **データ基盤を共同で整備できる** 個々の大学には予算・技術的ハードルがあります。地域で共同化すれば、コスト削減と標準化が両立します。
3. **地域の研究力を引き上げるインセンティブが働く** 大学が連携することで、RDMが「コスト」ではなく地域の価値創造インフラとして位置づきます。
4. **国の政策（2025年度からの加速）に対応しやすい** 共通のガイドライン作成、研修の効率化が可能となり、個々の大学の制度整備を強く後押しします。
5. **研究者支援の質を均質化できる** 地域連携でFAQや手順書を共有できれば、地域全体のRDMリテラシーが底上げされます。

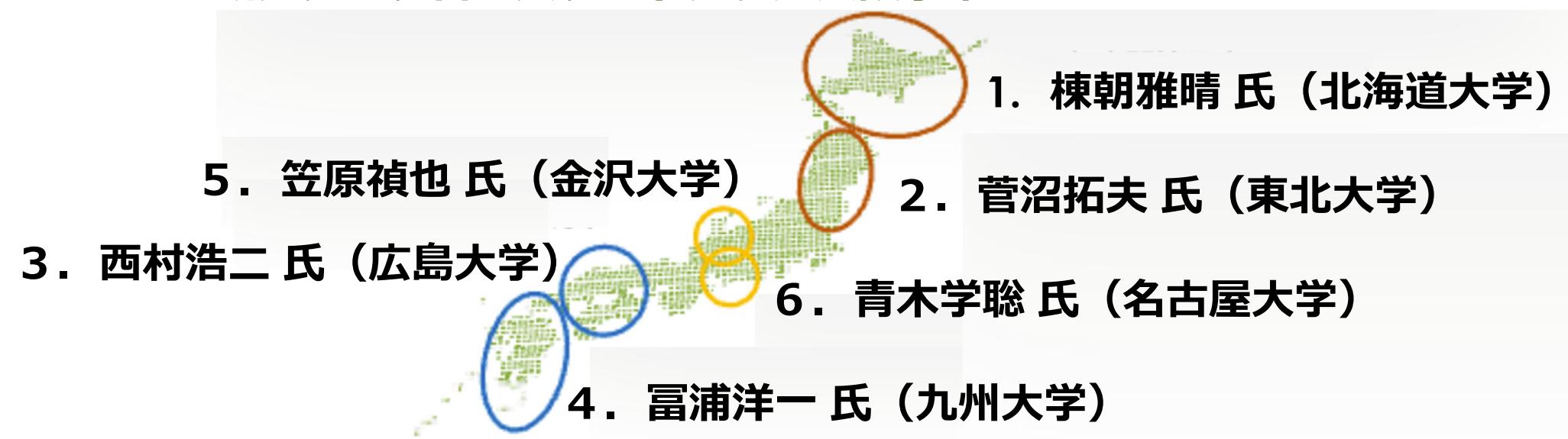
「地域連携」は、**大学のRDMを促進する強力なドライバー**です。**人材・予算・標準化の課題**を一挙に解決し、国の方針にも対応でき、地域の研究力強化にもつながります。

# 本日の企画セッション



(司会) 高田良宏 (金沢大学)

## 研究データ管理スタートアップ支援事業



パネルディスカッション：  
(モデレータ) 甲斐尚人 (大阪大学)